

第47回全日本中学生 水の作文コンクール

作品募集

テーマ
～水について考える～

「水の国くまもと」と呼ばれるほど
豊富な地下水に恵まれている私たち。
この機会に、水について考えてみませんか？

募集期間：令和7年(2025年) 4月1日(火)～5月7日(水)



大津町・瀬田地区
【水張りの風景】



熊本市
【江津湖湧水群】

熊本県は1000か所を超える湧水源があり、
国の名水百選(昭和・平成)に全国で最多の8か所が選定されています。
また、地下水に支えられた経済発展と地下水保全の両立を目的とし、
田畑の作付期間以外に水を張ることで地下水を育む活動が行われています。



©2010熊本県くまモン

★作成のポイント★

- ① **体験**や**学習**を思い出し、
水についての思いを書いてみよう！
- ② 自分の意見や今後心がけていきたい
ことを書こう！

裏面も参考に
してね！

R6年度の受賞作品は
こちらからご覧いただけます▶▶



令和6年11月12日 八代市立第八中学校で行われた学校訪問表彰

前回はいくまモンが
飛び入り参加！

前は受賞者が在籍する学校に訪問し
表彰を行いました！

応募率の高い学校には**団体賞**、
優秀な作品を書いた皆さんには**個人賞**があります。
また、応募者全員に**参加賞**をお送りします。

たくさんのご応募お待ちしております！

★作成のポイント（過去の受賞作品を例に）

「あいにく」

※題名は自由

「明日はあいにくの空模様でしょう。」
「本日はあいにくの雨の中……」

冒頭で読み手の興味を引く工夫をしよう

よく天気予報や挨拶で耳にするフレーズだ。しかし、私は「あいにく」だとは思わない。

夏の暑い日、父は自宅近くの畑まで両手にバケツを持って何度も往復していた。私も手伝ったことがあるが大変な作業であった。農家の祖父母は雨が降ると、

「今日はよか雨が降った。」

と喜んでいた。雨は行事が中止になったり、外出することがおっくうになったりするが、雨を待ち、喜んでいる人もいる。私は雨が大好きだということではないが、何となく、「安心する」というのが私の正確な答えだ。

水も雨も農家にとってなくてはならない。川よりも低い場所の田畑に水を入れることは容易に想像することができるが、川よりも高い場所や斜面の土地ではどうなっているのかという疑問を持ち、調べることになった。

近所の場所では「上井手用水川にせきを作り、上井手用水を流して畑へ」と水を引く。都町にある円形分水など様々なための先人たちの知恵を知ることは弥生時代の稲作が始まった頃にはある。人々にとつて安心した生活を送るために水や雨がどれだけ大事かということを知った。

しかし、雨が大嫌いになる出来事が起きた。昨年、熊本豪雨だ。テレビで流れる衝撃的な映像に大きなショックを受けた。何度も訪

水についての学習・体験

ばれる用水路がある。大きな流れ小さな用水路や水道橋など。他にもため池や水車、山あり、水を安定して利用する。水を有効に利用することを取り組んでいることがわかった。

オリジナルの体験を入れよう

れたことがある人吉球磨地域。あの球磨川や万江川、川辺川が恐ろしい姿に変わった。人吉に住む友人が心配で、無事であることがわかった時は涙がでた。父は以前、人吉に住んでいたこともあり、災害後すぐにボランティア活動に参加し、ほぼ毎週人吉に行っていた。クタクタで帰ってくる父に

「大丈夫？」

と声をかけると、

「今、行動せんといかん。」

という力強い答えが返ってきた。その後、中学校でボランティア活動の募集があり、すぐに申し込み球磨村へ行った。言葉が出なかつた。その光景に「水は残酷である」と感じた。家は壊滅状態、田畑には土砂がたい積し、色々なものが流れ着いていた。そこには祖母や父のような田畑を大事にしてきた人がいたのだろうと思い、一生懸命土砂と漂流物の撤去を頑張った。一緒に参加した皆の力で何とか元の姿に近いところまで整備することができた。その時の被災者の方の涙は忘れられない。「今、行動せんといかん」父の言葉を思い出した。

時に恐ろしい水。しかし大切な水。

歴史上人々は何度も災害を経験し、そのたび毎に立ち上がってきた。これからも私たちは水とうまく付き合ひ、安心して暮らせるための工夫をしながら生活しなければならぬ。そして、私たちにとつて水は最も大切であるということを忘れず、先人たちの知恵と行動に感謝しながら日々を送っていききたい。雨は決して「あいにく」ではない。

学習・体験を踏まえて考えたことを書いてみよう

